

## 第2回 広島県事業評価監視委員会質疑応答概要

日時:平成10年11月10日(火) 13:30~17:10

場所:県庁北館4階第3委員会室

### 1抽出6事業の対応方針(案)について

(吉野川, 関川ダム, 久井ダム, 木江港木江地区, 木江港大楡地区, 瀬戸田港中野地区)

#### ○ 吉野川について

**B委員** 住宅が随分増えてきたということだが、今後も住宅増加の見通しはあるのか。

**河川課長** 総合的な治水対策を検討する中で、流域全体で1,125戸の家屋が浸水することで費用対効果等の計算をしている。将来、2,067戸程度を予想して検討している。

**委員長** これは、何か推定法があるのか。

**河川課長** 現在の市街化区域内の土地利用形態から、将来、この区域が100%宅地になるという計算から出ている。

**B委員** 素人から見て、どの程度の被害を指しているのか。

**河川課長** 浸水形態はシミュレーションを使って想定している。浸水深の一番深いところで1.20mの浸水が考えられる。

**C委員** 堤防高の最高水位は、過去のデータの最高値なのか。その余裕高も教えてもらいたい。治水安全度3分の1年というのは、再現期間を言うのか。

**河川課長** 余裕高は、河川構造令の中で決められている。この河川の場合、最高水位から60cmの余裕高をとっている。また、超過確率は、これまでの福山地方の雨量を解析し、流域ごとの洪水到達時間内の雨量強度を30mmで計算した場合、計画流量が約7m<sup>3</sup>/s、それで治水安全度1/3という計算です。

**D委員** 新旧の計画を比較した場合、今後の総合的な治水対策は、どの程度のコストを見込んでいるのか。

**河川課長** 吉野川の全体流域を河川改修のみで対応すると約280億円かかる。新たな総合的な治水対策にかかる費用は、十分な計算をしていないが、下水道とか遊水池とかの最適な組合せにすると事業費の大幅な削減になると予想している。

**C委員** 事業効果は、何人位か。

**河川課長** 100%開発で2,067戸、1戸当たり3.1人として約6,400人くらいになるかと思う。

**委員長** 将来、再度見直しをすることのないように検討してもらいたい。今の宅地化面積は40%位だが、100%宅地化しても大丈夫なように、総合的な治水対策を計画するのか。

**河川課長** 今後の事業の手順については、治水上一番効果的なものから着手したい。まず、河

川整備からはじめ、下水、排水ポンプ等の整備を順次進め、総合的な治水対策になるよう検討している。

**委員長** 住民の人々は、度重なる浸水で困っておられるので、地元協力体制を敷きながら、計画を着実に進めていく必要がある。当面、流下能力を増やして、ポンプ排水をした時に比較的早く下流へ到達するようにする。これは、ほうっておけば良いものではない。

また、1,340mの区間の疎通能力を増加させるという具体的な話は出たが、それに付随するほかの調整池計画等はまだ具体化していないのか。

**河川課長** それは今後、関係機関と調整したい。

**委員長** 全体としてあまり具体化していないが、今後、手戻りのないよう効果的な治水対策を講ずるという方向で対応することにはどうか。

**監理課長** 本日欠席のE委員から、それぞれの事業について意見をいただいている。吉野川については、総合治水対策を行なった場合、コストを確認したいということと、この事業は、吉野川流域の浸水被害を防止する治水対策であり、基本的に異議はないという意見である。

**委員長** コスト削減については鋭意努力し、効果的な総合的治水対策を講じる方向で検討してもらおうということでいかがでしょうか。  
(「異議なし」の声あり)

## ○ 関川ダムについて

**B委員** 県の長期水需給計画は、何年ごとの見直しがあるのか。また、計画はその都度かなり変わるものなのか。

**ダム建設室長** 大体10年ぐらいのスパンで見直しを行なっており、今回は第4回目である。水の需要度は、生活実態が変わることにより、変化も大きいと思う。

**B委員** 東広島市の都市化も進んでいるが、そこも今度は対象区域に入るのか。

**ダム建設室長** 広島水道は、現在東広島まで全部含んでいるので、当然、その圏域として見ている。

**C委員** 関川ダムが完成した場合、将来の給水量にかなり余裕があるのではないかと。

**ダム建設室長** これは、平均給水量で考えている。実質的には、1日最大給水量が総論になるので、今後の開発計画を含め、長期水需給を見直すのに約2箇年位かかるのではないかと思っている。

**委員長** 関川に関しては、長期の水需要の見直しを行うという提案であるが、災害防止計画、三篠川の水害防止についてはどういう心づもりでいるのか。

**ダム建設室長** 超長期的な視野に立てば、治水ダムの必要性は出てくると思っている。

**委員長** 現在このダムは、多目的という位置付けなのか。

**ダム建設室長** 多目的である。

**委員長** 事務局の提案は、長期の水需給計画の見直し完了までは水文観測を続けるということであるが、いかがですか。

**監理課長** こちらについても、E委員から指摘がある。三篠川周辺地域の治水対策という側面は理解できる。2番目が、広島県長期水需給計画の見直しを行う中で、関川ダム建設事業の位置付けを明確にすること。3番目が、広島都市圏域の将来の水源と位置付けられているが、温井ダムとの補完関係はどうなっているのか。4番目が、広島都市圏域の定義であるが、地理的に見て東広島都市圏の水利計画との係わり出てこないのか。最後に、広島市の地域計画と連動していると考えてよいか。以上である。

**ダム建設室長** 現在、太田川の水は上流にある発電ダムからいただいている。それに今、温井ダムができています。

もし水質事故があった時に、この広島市を含めた圏域の安全という面から、違った流域での開発が必要になるということも念頭に入れる必要がある。

それから、我々は地域の方とお話ししてきて、ダムの必要性について訴えているが、広島市から、「現時点における、ダム建設に係る地域住民の意向を正確に把握していない等の理由から、時間をいただき慎重に検討させていただきたい」という意見をいただいている。

**委員長** 災害防止に関しては、しばらくほうっておくということになるか。

**ダム建設室長** 多目的としての必要性が薄いという結論が出てくれば、長期水需給計画等を見直し、治水に対して再度検討する必要があると思っている。

**委員長** 洪水被害防止対策としては、早急に手を打つ計画はあるのか。

**ダム建設室長** 下流の三篠川については、ダムを前提とした改修計画で改修を行っている。

**C委員** ダム等の完成後は50分の1の治水安全度になるということだが、現状はどの位の治水安全度なのか。また、これに対する国の方針、こういう地域は治水安全度を幾ら以上にしなさいというようなものはあるのか。

**ダム建設室長** 現在は、約30分の1ぐらいの河道ではないかと思っている。ダムとの連携でやっている場合は、大体80分の1から100分の1ぐらいの確率まで上げなさいという方針がある。

太田川の最下流の市街地は、200分の1の確率まで上げようと考えておられると記憶している。

**委員長** 洪水対策としては少し心細い面はあるが、事務局が提案したとおり、長期水需給計画の見直し完了までは、水文観測を続けるという対応でよいか。  
(「異議なし」の声あり)

## ○ 久井ダムについて

**委員長** 久井ダムが抽出対象事業になったのは5年を過ぎているからだが、久井町の要請だけに応えるダムだったら既に着手していたのか。

**ダム建設室長** 一概には言えないが、補償基準の妥結ぐらいまでは進んでいたのではないかと思う。このダムが久井町と御調町の境目にあるので、地元の説明に入った時に、調整が難しかった面はある。

**委員長** 生活環境を向上させるための水源計画という位置付けになるかと思う。

**B委員** ということは、利水だけでいいという判断もしているということか。

**ダム建設室長** 野間川の河道が未改修なので、洪水防御という治水面も目的の一つにある。その周辺の御調町は人家が集中しており、洪水調節と水供給計画に資するダムである。

**C委員** 水道の普及率が3%だが、住民の満足度は、県の平均普及率等に影響されると思う。それはどれぐらいの数値なのか。

**ダム建設室長** 県全体の普及率は、90.4%である。ほかに3%程度の市町村は神石町で1.7%で、君田村がゼロがある。逆に、下蒲刈等の島嶼部では約100%である。

**B委員** 御調町の人口はどのくらいか。

**ダム建設室長** 御調町の人口が8,382人、久井町が約6,000人である。  
ただ、今から下水が発達してくるので、それとの関連があるのではないかと思う。1人当たりの使用量は、通常のダムであれば450リットル位、小規模の時には250リットルぐらいで、計画上、小さ目に考えている。

**委員長** これは地元の強い要望もあるようなので、この計画で進めることにしてはどうか。

**監理課長** E委員からの意見を紹介する。久井町と御調町だけのものでもったいない、三原広域など周辺町村の水利計画はどうなっているのか、広域ダムの位置付けをしたほうがよい、という意見である。

**ダム建設室長** 三原等の給水区域は、現在建設中の福富ダムから供給する予定である。また、地形的に、久井町と御調町、三原市との境に大きな断層があり、地形的にもコストの面でも広域対象のダムと位置付けるのは無理である。

**委員長** これはこのまま進めていくということではどうか。  
(「異議なし」の声あり)

## ○ 木江港について

**B委員** 木江地区の鋼管杭はどの程度の間隔に打つのか。また、経費はどの程度かかるのか。

**港湾課長** 護岸に近い鋼管杭は、直径900mmで、2.25m間隔にしている。前面は連続している鋼管矢板で、これも直径900mmの矢板を使用している。今の断面ではメートル当たり

650 万円かかる。

委員長 ほかに検討している工法はあるのか。

港湾課長 このシルト混じり礫層を安定剤等で固め、硬い地盤に置き換えるやり方はある。層の滑りを阻止するために前面にマウンドをつくる、カントウエイト工法は、護岸が海へ張り出してしまふ。漁業者が極力海へ出さないでほしいという要請もごぞいます。捨石工法で行なうと、コストが倍くらいになる。

委員長 経費節減については、まだ固まっていないが、検討中であるということか。

港湾課長 杭の延長等が短くできれば、こうした工夫をしながら、安定計算を絡めて事業を進めたい。

委員長 大楡地区のほうは、違うのか。

港湾課長 断面的には全く同じだが、地盤の状態は、支持層とシルト混じり層が若干違う。

C委員 支配的な荷重は何か。

港湾課長 この上のコンクリートの上載荷重である。

C委員 上載荷重が支配的なのか。

港湾課長 はい。現況断面の安全率を計算すると、現在の構造をぎりぎり保っている断面である。

C委員 安全率はどの位か。

港湾課長 普通、1.2 から 1.3 位である。

もう一つ、地震の問題がある。直下型に対応する都市型の整備と、こういう地方で展開している海岸事業は大体、震度4から5位は持つ。しかしながらこれは直下型には、多分対応できていないが、断面としては上載荷重で決まっている。

D委員 人家に立ち退いていただき、背後の山を削る方が安くつくのではないか。

港湾課長 これにかかる事業費を比較すると、事業区間の 635m で家に立ち退いていただき、道も迂回道路の仮設道路をつくった場合、道路兼用断面で 35 億円で、約 1 割アップになる。ちなみに、メートル当たりで換算すると、現在 647 万円、道路をつぶし、用地補償費も払ってとくと 721 万円で約 1 割アップです。

この方法は、現実的ではないと思う。島嶼部は平地が少なく地元の同意が得られにくい。主要幹線の県道も迂回道路をつくらねばならない。

木江町からは、「台風による波浪・浸水の被害を毎年受けており、国土保全と地域の人々の尊とい生命財産を守るため、当事業の完成に向け引き続き整備をお願いしたい」という意見が出ている。

C委員 同じこの鋼管杭工法を使うにしても、鋼管の太さやピッチ等あるが、そのあたりの比較もしているのか。

港湾課長 当然、それをトライアルしながら行っている。

委員長 沖出しの寸法をもう少し出したらどうか。

港湾課長 出すことは漁業組合との問題があるので非常に難しい。

**委員長** 防護人口は徐々に減りつつあるものの、国土保全と地域の人々の生命・財産を守るための事業として、経費節減を考慮しながら続けてもらわないと致し方ないと思うが、いかがでしょうか。最後に、経費については御検討願う。  
(「異議なし」の声あり)

### ○ 瀬戸田港について

**委員長** 航路の再編成をにらんだ整備をしたいということであるが、瀬戸田町も了解しているように、当面は休止が妥当だと思う。休止したら、どれぐらいの経費節減になるのか。

**港湾課長** 今のこの計画の事業費が約2億4,000万円である。

**委員長** 以上の対応方針でどうでしょうか。  
(「異議なし」の声あり)

**委員長** 抽出した6事業については、ここで検討いただいた対応方針(案)をベースとして、これに皆さんの意見を組み入れながら、意見具申書を来年2月頃をめどにまとめた。

## 2 新たに審議する再評価対象事業について

(土木建築部都市局, 農林水産部所管事業)

### ○ 林道について

**C委員** 作木村長が、過疎化・高齢化が進んでいるので、森林及び中山間地域の環境整備や振興を一層図る必要があると言っている。その振興に対する具体的なビジョンはあるのか。

**林業振興課長** 地域振興に直接どれぐらい役立つかという部分については、明確なものがない状況であるが、費用対効果は出す。

**委員長** 将来計画はかなり長距離であるが、平成10年度計画は少ししかない。緊急性という意味では、切実なものは、あまりないのだろうか。

**林業振興課長** 最近、単価が上がり、進捗が悪くなっている。緊急性を言われると、非常に厳しい。

**B委員** 林道の計画と他の道路の計画の整合性を合わせて検討しているのか。

**林業振興課長** 調整については、市町村で計画する時に行っている。

**委員長** 林道は、国費が全部入るのか、それとも一部か。

**林業振興課長** 林道は、国費事業と単県費で行う場合と両方ある。

## ○ 公園について

**D委員** 庄原に国営の公園があり、三次には県営のみよし公園がある。三次と庄原とで、一体化したような公園の計画はないのか。

**公園下水道課長** みよし公園は昭和56年から事業を行っているが、国営公園が来たのはその後である。今、国と県で、同じようなものをつくらぬよう調整を取っている。

県の公園は、無料であるが国営公園は、有料である。国営公園は開設して1年後には利用者が減少しているが、みよし公園は、毎年増加している。広域的な公園としては成功している例ではないかと思う。

**委員長** 利用人口が増えているので、この公園は要らないとは言えないだろう。

審査対象事業の抽出に入る。どの事業を抽出したらよいか、まず事務局で何か提案があるか。

**監理課長** まず、公園は、事業認可期間が長く、入場者数も増えている。下水道の2事業は、流域下水道ということで、市町村の公共下水道の整備や処理人口増に合わせて整備していくので、必然的に長くなる。連立立体交差は、これから都市計画決定という段階である。

最後に砂防事業は、広島西部丘陵都市宅地造成に伴う上流の梶毛川の護岸工により土砂災害を防ぐというもので、既に84.9%進捗している。以上、都市局6事業については、重点審議をいただく抽出事業に該当するものはないと考えている。

**農林企画課長** 農道福富西条線は、ルート変更を余儀なくされたので、事業費が大幅に増加する見通しである。費用対効果という視点で、再度検討する必要があると考えている。

林道牧黒目線は、当初、この林道が採択になった時点では県道あるいは地方道の整備計画はなかったが、現時点では町道なり県道が整備されてきているので、並行路線になり、全体計画を見直す必要があると考えている。次回までに詳細な資料を用意し、見直すべきかどうか改めて、重点的に審議していただきたい。

**委員長** 今、事務局から提案いただいたように、委員会として2事業を抽出してよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、次回この2事業について審議を行うが、本日以降、改めて資料を見て、意見のある事業があれば、2週間以内に事務局にお知らせください。

なお、ここで抽出した事業以外の事業については、原則として県の対応方針(案)を承認することにしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、承認することとする。